

2023 年度 学校評価報告書

◆指導計画と結果

	計 画	結 果
乳 児 部	保育者体制を整える。	保育の方向性を整えるため、クラス内保育者同士の連絡を密に行った。 月齢や支援が必要な子に応じた補助者の配置を工夫した。
	登園時の視診の徹底、保護者へ子どもの様子を伝える。家庭との連絡を密にする。	検温、体調チェックは徹底した。朝の視診および、一日を通しての健康観察を丁寧に行う。家庭との連絡徹底は概ねできた。
	一人ひとりの姿をしっかりとらえ、成長へとつながる保育を心掛ける。	経過記録をしっかりと取り、成長の様子を確認しながら進めた。
	幼児部との連携をとり、乳児部として、10の姿につなげられる保育を心がける。	特に2歳児（乳児部）から3歳児（幼児部）に進級する時期に保育室訪問などを行った。
	「ヒヤリハット」を確認し安全な保育を心掛ける。	学期ごとに集計分析し、再発防止に努めた。

	計 画	結 果
幼 児 部	カリキュラムの充実	行事の変更等もあったが、概ねできた。
	縦割り保育（ノアの日）の実施	縦割りでの英会話も実施した。 1号児の長期休園中は、縦割りで過ごすことで、年少児を思いやる姿が多々見られた。
	成長過程を基本に、一人ひとりの成長にあわせた目標を掲げる。	一人ひとりの毎日の様子を記録することで、成長の様子を見守り援助することができた。
	菜園での栽培と衛生面を配慮し、クッキングを実施する。	感染症予防対策をとり、衛生面に気を付け学期に1度実施することができた。 野菜栽培は各クラス行い、野菜は給食材として食した。
	乳児部と連携をとり、乳児期から幼児期へのつながりをもつ。	2歳児（乳児部）から3歳児（幼児部）に進級する時期に保育室訪問などを行った。

	計 画	結 果
愛 児 会	感染症5類移行に伴い、感染拡大防止対策を取りながら、できる範囲での行事を行う。	「なつまつり」を久しぶりに行った。 親子で楽しむことができた。

◆保護者アンケート A:そう思う B:どちらかというと思う C:ふつう D:そうは思わない

【幼児部 3歳児～5歳児】

No.	設問	A	B	C	D
1	お子さんは喜んで登園していますか。	24	6	3	0
2	ご家庭で、園の出来事やお友だちの話をしますか。	20	10	3	0
3	保育者、職員の対応や言葉遣いは丁寧だと感じますか	28	5	0	0
4	保育者は、子ども様子についての連絡や相談に丁寧に対応していますか。	26	6	1	0
5	園と家庭との間で連絡・連携がしっかりとれていると感じますか。	23	8	2	0
6	園日より、クラス日より、園からのお知らせは、わかりやすいですか。	24	8	0	1
7	体調不良時やケガなどが起きた時に、丁寧にわかりやすく状況を伝えていますか。	27	6	0	0
8	子どもが興味関心のあること、成長段階に応じた保育・教育をしていると思いますか。	24	9	0	0
9	ブログを通して、園での活動の様子がわかりやすく伝わっていますか。	25	8	0	0
10	安心して園にお子さんを預けることができますか。	25	8	0	0

【乳児部 0歳児～2歳児】

No.	設問	A	B	C	D
1	お子さんは喜んで登園していますか。	17	1	1	0
2	保育者は、園児一人ひとりの思いや成長を大切に見守っていると感じますか。	18	1	0	0
3	保育者、職員の対応や言葉遣いは丁寧だと感じますか	18	1	0	0
4	保育者は、子ども様子についての連絡や相談に丁寧に対応していますか。	18	1	0	0
5	園と家庭との間で連絡・連携がしっかりとれていると感じますか。	18	1	0	0
6	家庭への連絡（連絡ノート）が細かく行われていますか。	17	2	0	0
7	園日より、クラス日より、園からのお知らせは、わかりやすいですか。	18	1	0	0
8	ブログを通して、園での活動の様子がわかりやすく伝わっていますか。	17	2	0	0
9	体調不良時やケガなどが起きた時に、わかりやすく状況を伝えていますか。	17	2	0	0
10	安心して園にお子さんを預けることができますか。	18	1	0	0

【皆さんからいただいたご意見】

ご意見	こども園からの回答
* 幼児部親子遠足について、雨天でも室内で楽しめる場所があればよかった。子どもたちも楽しみにしていたのに残念だった。(同意見あり)	* 雨天の際も中止とせず、室内でも過ごせるように計画します。
* クリスマス会や発表会などの観客の人数制限がないと嬉しいです。	* これからは観覧者の人数制限は行いません。
* 市や施設からのお手紙もあると思いますが、お便りの用紙の規格を統一してもらえると管理しやすいかと思います。	* 園からのお便りはA版（A4またはA3）サイズにそろえていきたいと思っています。
* お知らせが急だと思う時が時々あります。	* 年間予定表から変更になる場合や準備していただくものは、早めにお知らせします。また、急なお知らせは連絡なびメールでのお知らせとなる場合もありますので、メールの確認もお願いいたします。

◆教職員自己評価・自己点検から

保育の在り方、幼児（3歳以上児）への対応 A:よくできている B:できている Cあまりできていない

健康と安全への配慮	
1.登園時は特に視診を大切に幼児の体調が悪くないかを確認する	A
2.体調が悪そうな時や万一事故が起きた場合には適切な処理を行い家庭や関係機関へ連絡している	A
幼児のみと理解	
1.幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサイン、その姿の中にある心の動きを推理し、基本的欲求が満たされるよう配慮している	B
2.一人の幼児をじっくり見ながら見えない所で活動したり遊んだりしている幼児についても、ある程度その活動を推察することができる	B
3.個々の幼児の発達の姿や課題について見通しをもって理解する	B
指導とかかわり	
[心のよりどころ]	
1.幼児一人ひとりを観察し、ありのままの姿を受け入れ認めるようにしている	B
2.幼児との温かなやりとりやスキンシップを常にこころがける	A
3.幼児の話をよく聞くようにしている	A
4.「一人ひとり」と「みんな」の関係を常に考え、クラス集団をまとめている	B
[遊び・活動の援助者として]	
1.幼児が遊びや活動を深めていくためのヒントやアイデアを提供している	B
2.幼児をほめたり、はげましたり、めあてをもたせるような言葉がけをしている	B
3.禁止、命令、行動を急がせたり、自信を失わせることばや態度はできるだけ控えている	B
保育者同士の協力・連携	
1.クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉かけや対応をしている。また、情報を提供している	B
2.指導上配慮を必要とする幼児については、園の保育者全体で特に話し合い、共通理解をもって、工夫し対応するようにしている	B
3.他クラスや異年齢の幼児たちと触れ合うよう様々な工夫、保育形態を取り入れている	B

保育の在り方、3歳未満児への対応 A:よくできている B:できている Cあまりできていない

健康と安全への配慮	
1.朝登園時、家庭からの連絡をもとに視診・触診をして、健康状態をたしかめている	A
2.体調が悪そうな時は静かに寝かせたり検温するなど、適切な処置を行いすぐに家庭に連絡している	A
3.保護者から健康状態の申し出を受けるなど、健康状態を共有し、アレルギー、熱性痙攣、脱臼などの既往症について把握している	A
4.体重、身長などの測定を定期的に行い家庭に知らせると共に、バランスの取れた発育が促されるように配慮している	A
5.家庭と連携をとりながら一人ひとりに合わせて離乳食の移行を行い様々な食品に慣れ、食への意欲を育てている	A
6.睡眠が十分とれるような静かな環境を整え、午睡の状態（呼吸・顔色・嘔吐・汗）およびSIDSのチェックを記録している	A
7.一人ひとりの排泄感覚を把握し、その子の排泄リズムに合わせて、オムツ交換をしたり、トイレに促している	B
乳児のみと理解	
1.話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサイン、その姿の中にある心の動きを推察して受け止め、信頼関係を築いている	A
2.泣いたりぐずったりサインを見逃さず、要求に応じた適切な対応をしている	B
指導と援助	
[心のよりどころとして]	
1.落ち着いた雰囲気の中で抱いたり語りかけたりして、乳幼児が人との関わり楽しさや心地よさを味わえるようにしている	B
2.泣いたりぐずったりサインを見逃さず、要求に応じた適切な対応をしている	B
[遊び・活動の援助者として]	
1.心身の発達及び生活の連続性に配慮し、好奇心や発達を促す環境を整えて保育をしている	B
2.自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとり、安心感と自己肯定感もてるような言葉がけをしている	B

3.禁止語を不必要に用いないようにしている	B
保育者同士の協力・連携	
1.保育者全員が情報を共有し、クラスに関係なく、その場にいる保育者が適切な言葉がけや対応をしている	B
2.指導上配慮を必要とする乳幼児については、園全体で話し合い共通理解をもって対応するようにしている	B
3.他クラスや異年齢との触れ合う機会がもてるように様々な工夫、保育形態に配慮している	C

これからの課題について

- * 幼児部では定期的に縦割り保育を行っており、3歳児から5歳児まで一緒に遊ぶ機会があるが、乳児部との関わりを持てる機会を工夫したい。
- * 年齢、発達に応じた制作の工夫を行いたい。
- * 一般的に会話の中で、略語や言い回しが間違った使い方がみられるので、子どもたちとの会話は正しい言葉使いを心がける。
- * 自身の体調管理をしっかりと行い、保育に当たれるようにする。
- * 組織の一員として、他の保育者の意見を受け入れたり、自分の意見を伝えたりすることができるようにする。
- * チーム保育を行う上で、保育者同士よく話し合い、同じ方向を向いて保育に当たるようにする。
- * 言葉がけにおいて、否定的ではなく肯定的な言葉に置き換え丁寧な保育を心がける。
- * 保育の引き出しを増やす努力をする。(ふれあいあそびや手遊びなど)
- * 個々の発達に合わせた言葉がけや援助を行うようにする。
- * いやいや期の子どもに対して、ひと呼吸おいてゆったりとした気持ちで関わるようにする。